

平成31年3月4日

平成31年度継続課題に係る継続評価書

研究機関 : 大阪大学、産業技術総合研究所
: 次世代人工知能技術の研究開発

研究開発課題 : 課題Ⅱ 人間の脳の演算処理メカニズムに倣った脳型演算処理
技術の研究開発

研究開発期間 : 平成 29 ～ 31 年度

代表研究責任者 : 鈴木 義茂

■ 総合評価 : 適

(評価点 15点 / 25点中)

(総論)

これまでの研究成果に基づき、目標成果の優先度の見直しあるいは再構築の努力を期待したい。

(コメント)

- 新しい技術の研究開発に取り組むものである。
- 2つのテーマのギャップが大きく、両方ともインパクトを示すレベルに到達するのは難しく見える。
- 全体統合がむずかしければどこかの一部だけに集中するというやり方もあると思う。
- 提案書の内容をもう少し校正していただけるとありがたい。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況及びアウトカム
目標の達成に向けた取組みの実施状況

(5～1の5段階評価) : 評価3(評価点)

(総論)

継続評価に対する対応は一定程度評価できる。しかし、個々の研究はそれなりに進展していると思うが、全体としてのまとまりに欠ける印象がある。

(コメント)

- リザーバー計算機が提案時の3.6倍の性能を達成した。
- 2つのテーマのギャップは依然として大きい。
- 8x8の磁性ドットアレイができ順調に進んでいる。
- スキルミオンの制御は順調に進んでいる。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(5～1の5段階評価) : 評価3(評価点)

(総論)

適切な使用状況である。

(コメント)

- 適正に執行されている。
- 効率的な予算執行が行われている。
- もう少しめりはりをきかせた使用が望ましい。

(3) 研究開発実施計画及びアウトカム目標の達成に向けた取組み

(5～1の5段階評価) : 評価3(評価点)

(総論)

成果のインパクトを示す計画としては更に努力が必要である。

(コメント)

- 課題Iとの連携は手話などのジェスチャーの認識を行うこととした。
- 個々の研究の計画はそれなりに理解できるものの、全体像に結び付かない。
- スキルミオンはランダムネスを用いた最適化問題の近似ソルバーとして利用可能と思われるので、最適化問題ソルバーの現状のサーベイを含めて検討していただきたい。

(4) 予算計画

(5～1の5段階評価) : 評価3(評価点)

(総論)

妥当な予算計画である。

(コメント)

- やや絵花的な印象を受ける。
- 適切と思われる。

(5) 実施体制

(5～1の5段階評価) : 評価3(評価点)

(総論)

課題Iとの連携が進んでおり、妥当と考える。

(コメント)

- 量子情報理論及び情報熱力学の専門家と理論的な検討を行っている。
- 全体としてはともかくとして集中すべき箇所に集中していない印象を持つ。